

## オキシドール「ヨシダ」

日本薬局方  
オキシドール  
Oxydol日本標準商品分類番号  
872614貯 法：遮光した気密容器に入れ、30℃以下で保存  
使用期限：ラベル等に記載

承認番号	(61AM)1739
薬価収載	1961年1月
販売開始	1961年1月
再評価結果	1983年4月

## 【禁忌(次の部位には使用しないこと)】

瘻孔、挫創等本剤を使用した際に体腔にしみ込む恐れのある部位

## 【組成・性状】

## 1. 組成

過酸化水素2.5～3.5w/v%を含有する。  
添加物としてフェナセチンを含有する。

## 2. 製剤の性状

本剤は無色澄明の液で、においはないか、又はオゾンようのにおいがある。本剤を放置するか、又は強く振り動かすとき、徐々に分解する。本剤は酸化剤又は還元剤と接触するとき、速やかに分解する。本剤はアルカリ性にするとき、激しく泡だって分解する。本剤は光によって変化する。

pH：3.0～5.0

比重  $d_{20}^{20}$ ：約1.01

## 【効能・効果】

創傷・潰瘍の殺菌・消毒

外耳・中耳の炎症、鼻炎、咽喉頭炎、扁桃炎などの粘膜の炎症  
口腔粘膜の消毒、齦窩及び根管の清掃・消毒、歯の清浄、口  
内炎の洗口

## 【用法・用量】

創傷・潰瘍：原液のままあるいは2～3倍希釈して塗布・洗浄  
する。耳鼻咽喉：原液のまま塗布、滴下あるいは2～10倍(耳科の  
場合、時にグリセリン、アルコールで希釈する)  
希釈して洗浄、噴霧、含嗽に用いる。口 腔：口腔粘膜の消毒、齦窩及び根管の清掃・消毒、  
歯の清浄には原液又は2倍希釈して洗浄・拭掃  
する。

口内炎の洗口には10倍希釈して洗口する。

## 【使用上の注意】

## 1. 重要な基本的注意

長期間又は広範囲に使用しないこと。

## 2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査  
を実施していない。

## (1) 重大な副作用

空気塞栓(頻度不明)：空気塞栓を起こすことがあるの  
で、循環動態に異常を認めた場合など空気塞栓が疑わ  
れる症状が見られた場合は、速やかに本剤の使用を中  
止し、適切な処置を行うこと。

## (2) その他の副作用

口 腔 連用により口腔粘膜刺激(頻度不明)

## 3. 適用上の注意

## (1) 人 体

## 1) 投与経路

外用にのみ使用し、内服しないこと。

## 2) 使用時

ア. 眼に入らないよう注意すること。入った場合には水  
でよく洗い流すこと。イ. 易刺激性の部位に使用する場合には、正常の部位に  
使用する場合よりも低濃度とすることが望ましい。ウ. 深い創傷に使用する場合の希釈液としては、注射用  
蒸留水か滅菌精製水を用い、水道水や精製水を用い  
ないこと。

## 4. その他の注意

長期大量経口投与によりマウスの十二指腸に腫瘍の発生が  
認められたとの報告がある。

## ※【薬効薬理】

使用濃度において細菌に有効であるが、その作用は緩和で持  
続性がない。発泡による機械的清浄化作用がある。グラム陽  
性菌、グラム陰性菌、酵母、ウイルスに有効である。オキシ  
ドール(過酸化水素水)の過酸化水素から生じるヒドロキシ  
ラジカルにより細胞膜、DNAなどが損傷を受けることが作  
用機序と考えられる。

## ※※【包装】

500mL、100mL×12

## ※※【主要文献】

第十七改正日本薬局方解説書 C-1143 廣川書店(2016)

## 【文献請求先】

吉田製薬株式会社 学術部

〒164-0011 東京都中野区中央5-1-10

TEL 03-3381-2004

FAX 03-3381-7728

製造販売元

吉田製薬株式会社  
埼玉県狭山市南入曽951